里山の強さを、学ぼう

日本一、「消滅する可能性が高い」と言われた
過疎高齢化の群馬県南牧村は
日本一、生きる力のある強くてあったかくて
元気で美しい村だった

自給自足農業、農産物加工、古民家再生、
エネルギー調達（薪割り）、地域の支え合い、
物々交換経済、「足るを知る」価値観、
川遊び、天体観測　etc・・・

村を時々、訪ねて、村の人たちからそんな暮らしを学び、体感し、
お金に頼らず幸せに暮らす「なんもく力」を学ぶ、
幸せな村が100年後も続くためのアクションを仕掛ける

「なんもく大学」、開校。

一つでも当てはまったら、次のページへ・・・

- □ 田舎暮らしに興味がある
- □ 畑仕事をやってみたい
- □ 食に関心がある
- □ 古民家が好き
- □ 自然が好き
- □ 都会の暮らしに違和感を感じる
- □ 田舎（いつでも帰れる場所）がある人っていいなって思う
- □ DASH村をやってみたい
- □ 地域再生に関心がある
- □ イノベーションを起こしたい（新しい切り口、新しい捉え方、新しい活用法）
- □ 経済効率ばかり優先される世の中はちょっと息苦しい
- □ 本を出してみたい

【プロローグ】

2時間、東京から車を走らせると、群馬県南牧（なんもく）村という山の中の小さな村があります。平地が少なく、農業も企業誘致も競争に不利な土地。若い人は仕事を求めて都市に出て行き、60年前、１万人以上いた村の住民は今、2200人。そのうち、約60％が65歳以上の高齢者。「人口減少と高齢化が日本でもっとも進んだ村」と聞いて「寂しい」「生活が大変そう」と想像し、初めて取材で村を訪ねたのは2010年春のことでした。道に迷ってぶらぶら歩いていた私に、見知らぬ高齢の男性が近寄ってきました。満面の笑みで両手には土のついたサヤエンドウが山盛り入ったカゴ。「よお、どした？」「あの、○○さんのお宅を探しているんですが」「○○さんならこの道をまっすぐ行って右手に･･･。そんなことより、うちのかあちゃんの飯食ってくか？うまいぞ」

『･･････ん？今、私、おじいちゃんからナンパされた？』

これが村との最初の出会いでした。その後も村に泊まり込んで取材するうち、じわじわと感じたことがありました。

『この村、生きる力がハンパない』

「生きる力」とはここでは「お金に頼らずに幸せに暮らす力」のこと。野菜は自給自足でおかずも物々交換。山から山菜、きのこ、シカをとり、木造古民家には薪ストーブ。車の運転できない近所の高齢者を乗せて隣町まで病院や買い物に行く、なじみの人たちに囲まれて暮らす安心感。川で遊んで夜は夜らしく真っ暗で満天の星空。「村にある物だけ食べてもでかい赤ちゃん産めたんだ。今はさしみまで食べられてぜいたくだね」と笑うおばあちゃん、「けぇ～せらせらぁ～（なるようになる）」と笑うおじいちゃん。

「ブータンが幸せの国って言っても便利さに慣れた日本人は幸せとは思えないだろうなぁ」と思っていた私。でもコンビニはない、週１回しかバスが来ない集落もある、そんな「不便」な南牧村では、自然と寄り添い、互いの存在を認めあい、自助、共助の力で楽しみながら丁寧にシンプルに暮らしている。災害で経済が麻痺しても、日本が経済破綻しても、超高齢社会で公的サービスが削られても、崩れない力。これって究極の社会保障なんじゃないか。

東京で生まれ育った私は、近所に誰が住んでいるかも、自分の周りの物がどんな風に作られているかも、よく知らないし、高い家賃と外食とレジャーのために時には心身を壊すまで必死に働いて、老後は介護サービスに頼って、お金がない人は社会から振り落とされていく、そんな暮らしに違和感を持ちながらも、当たり前だと思っていました。「お金を稼ぐ力のない農山村は国の財政も厳しいから切り捨てよう」と考える人は少なからずいます。けれど、都市部の私たちこそ、持続可能で幸せな未来を創るヒントを南牧村から学べるんじゃないか。お金はいらないとか、質素に生きろとか、そう極端な話ではなく、バランスの問題で、あまりにもお金に頼り切って経済効率ばかり優先される社会はちょっとこわいし、息苦しい。

南牧が理想郷という訳ではありません。このまま若い人が減り続ければ、25年後、村は行政サービスを維持できず「消滅」する可能性が高いという識者もいます。村を歩くと、支え手が減り、「この集落は自分たちの世代でおしまい」という声も聞こえてきます。村内の児童生徒数が急減して教育環境に不安を感じる親もいれば、担い手がおらず消えてしまう伝統もあるし、耕作放棄地や空き家が増えて野生動物が人里を荒らしています。そうした現実に危機感を抱き、村役場や村の若手有志も、若者の移住や雇用の創出、観光客増や特産品開発に動き始めています。都市と村の未来のため、村で生きる力を学ばせていただくと同時に、村の魅力が多くの人に伝わり、元気な村が次世代に引き継がれる力になれますように。そんな願いを込めて、仲間を集め始めました。これが、2014年冬のことです。

さて、この物語、ここから先、あなたが主人公になってもよし、１回きり登場の通行人Aになってもよし、村人になってもよし。日本の未来を変えるかもしれない、探検の物語のはじまりはじまり･･･

語り手・田中ひろみ

【なんもく大学　Profile】

□ Vision（未来図）

feel the village, make sustainability

都市に暮らす人たちに、お金に頼らず幸せに生きる南牧村を体感する機会を提供する。
村のファンを増やし、過疎高齢化に負けずに幸せな村が100年、200年後も続くためのアクションを生み出す。

□ Policy（大切にする考え方）

・学ぶだけでなく、村や都市に新たな価値を生み出す活動を行う
・メンバーの出入りは自由
・資本主義を全否定する過激なコミュニティではありません（笑）

□ Students（学生）

正式発足準備中。職業、自由人、学生、居住地問わず。1回のみの参加もOK！
受講費は交通費や制作物の材料費など実費。
2015年2月時点で、首都圏で働く若手社会人や慶應大学（SFC)と東京大学の鈴木寛教授のゼミ生や卒業生などなど15人くらいが活動中

□ 発起人（言い出しっぺ）

田中ひろみ（東京生まれ、群馬育ち、東京在住の新聞記者6年生）

□ 連絡先

現在、情報共有・発信手段検討中。ひとまず、Facebookで田中ひろみまで
メッセージもしくはfacebook内で「なんもく大学」で検索→「グループに参加」をクリック
https://www.facebook.com/hiromi.tanaka.52438 ▸

【これからのあらすじ(案)】

※活動は始まったばかり。ここから先の具体案は今後の話し合いの結果で変わる可能性がまだまだあります。「こんなことやってみたい！」「このゼミのリーダーはまかせろ！」というお申し出も大歓迎。そう、つまり今が一番おもしろい時期なんです。わくわく。

2015年2月22日　空き古民家＆畑探し＆村おこしグループとの打ち合わせツアー

3月～　**住ゼミ開講:古民家再生**
集落の方々にあいさつして集落の歴史や行事を学び、
村の大工さんから教わりつつ、新たな技術・知恵も取り入れて
大学の拠点になる空き家を修復＆大掃除！

3月～　**食ゼミ開講:耕作放棄地の再生**
村の農家さんから教わりながら、新たな技術・知恵も取り入れて、
使われなくなった段々畑を耕して、野菜づくりをスタート！水はけが良くて寒暖の差が大きい村の畑でじっくり育てた野菜は味が濃い＆安心！

4月　入村式・お花見(カタクリ、千本桜・・・花盛り！)
エネゼミ開講:村の方々から薪割りを教わりつつ、小規模発電などなど
新たな技術も取り入れ、将来的にエネルギーの自給自足を目指します

5月　新緑　**食ゼミ:山菜採り体験&保存方法勉強会**

3月～随時　村や集落のお祭り・行事に参加

7月　**楽ゼミ開講**:川遊び＆バーベキュー＆キャンプファイアーetc・・・
なんもくらしい楽しいアクティビティーを開発します

8月14、15日　火とぼし(国選択無形民俗文化財の火祭り)

8月　前期ゼミ発表会**「新・なんもく力」コンテスト**
小規模発電、新たに生み出した農業の工夫、村のものを生かした新メニューなどなど、
半年間のゼミを通して実践してきた「なんもく力」を高める新たな取り組み、工夫を発表。
村の方々やインターネット上の投票でグランプリを決定。

9月～　再び作戦会議

(本出版やカフェ出展、観光PR、職づくり、教育も検討中。次ページへ！)

畑は続けつつ・・・ほか2015年秋以降の授業案

Idea1：PRゼミ：なんもく村期間限定アンテナショップ

自分たちで育てた分の野菜＋お裾分けの村の野菜を使った
期間限定ランチorディナーの提供＆村の特産品販売・PR＆生産者の声紹介
場所は六本木農園などすでに集客力のある店の協力を仰ぐ
→村の観光や移住のPR、特産品の販路開拓のきっかけに

Idea2：PRゼミ：なんもくヒトガイド（仮）出版

―小さな村だからこそできる
「この人たちに会ってみたい」「こんな人たちと暮らしたい」から生まれる
観光誘客、移住促進のあり方を提案―

現役記者による文章書き方講座、取材先の紹介
→南牧村で素敵な暮らし方をしている人たちを取材・写真撮影
→現役記者らによる編集→出版
→道の駅や銀座の県アンテナショップ、東京の移住相談窓口、一般書店などで販売
　村や移住PRグループのHPで活用
　着地型観光ツアーに活用

Idea3：ゼミ発表会「目指せゼロ円幸せ生活コンテスト」

採れた野菜や再生した古民家、まき割りなどなど、学んだことを生かし、どれだけお金を使わずに1か月間、
なんもくらしく楽しい生活を送れているか、ネットで記事や写真、動画を投稿し、ネットで投票！

Idea4：職ゼミ

村から若い人が出て行く、若い人が村に移住したくてもできない、一番の理由は仕事がないこと。なら、つくってみよう。どうすればいいか答えはまだ見えないけれど。答えが見えないからこそワクワクするんです。そんなゼミです。

Idea5：教育ゼミ

「児童生徒数の少ない学校は集団活動もできないし、競争も生まれないし、できるだけ廃校にしましょう」という人もいるけれど、小さいからこそできる教育がきっとある。「なんもくに行けばこんな教育が受けられるのか」と村の魅力の一つにしてしまおう。
どうすればいいか答えはまだ見えないけれど。答えが見えないからこそ・・・そんなゼミです。